

時折激しい雨が降って街に水が溢れますが、昨年のような大洪水にはならないようです。9月、そして10月に入っても暑い日が続いていますが、皆様如何お過ごしでしょうか。

9月5日に本使はセネガル政府の招待を受けてマガルのお祝いにトゥーバを訪問しました。トゥーバは人であふれていて、道が大渋滞し、警察のバイクによる先導が付いたにもかかわらず行きに4時間、帰りに5時間がかかりました。ムリッド教団側の説明では、マガルの期間中の1週間で500万人以上の信徒が世界中からトゥーバに巡礼に来るそうです。イスラム教ではサウジのメッカへの巡礼が有名ですが、トゥーバへの巡礼はメッカへの巡礼について大規模なものだそうです。

5日は正午からムリッド教団幹部と内務大臣等が参加して公式な祝祭行事が始まり、午後3時から外交団が別な建物に案内されて総カリフを表敬する機会がありました。各国大使が順番に総カリフに挨拶するのですが、本使は片言のウォルフ語で日本とセネガルとの友好関係について話しかけると総カリフは大変喜んでいました。

ムリッド教団も含めてセネガルのイスラム教は穏健な教えを説いています。不安定な情勢が続く西アフリカでセネガルは独立以来安定を維持してきましたが、セネガルの安定においてこの穏健なイスラム教の果たす役割も重要だと思います。イスラムの教えを理解することは難しいのですが、できる限りイスラム指導者との友好関係を構築していきたいと考えています。

今週はカザマンス地方に出張してきました。カザマンス地方は、長年MFDCという武装組織が反政府闘争を続けていたため、邦人に対する渡航情報のレベルは3になっていました。これは事実上の渡航自粛を求めるレベルです。このようにカザマンスは日本人にとって渡航が困難な地域であったのですが、近年、マッキー・サル大統領の尽力により和平が進展し、安定化が進みました。今回の出張は、そうした治安状況の改善を受けて、渡航情報の見直しを進めるために現地の状況を本使自身の目で確認することでした。

カザマンスは水が豊かで水田があり、緑が豊かで森は深く、ダカールでは見られない巨木が茂っています。とても美しい地域です。ジゲンシオールやカップスキリングでは人々が平和に暮らしていて治安の問題は一切感じませんでした。今回の視察結果を踏まえて渡航情報のレベルの見直しを進めます。

今回の視察で長年続いた紛争の残滓としてガンビアやギニア・ビサオとの国境付近において残地地雷の問題が深刻なことが分かりました。和平が進み、村を追われた人たちは故郷に戻りたいのですが、地雷の脅威が残っているために安心した暮らしを取り戻せません。日本は東南アジアにおいて地雷除去の協力を積極的に進めていますので、こうした我が国の経験に基づき、カザマンスの地雷問題についても何らかの協力を進められればと考えています。

大統領選挙については、9月に与党の大統領候補がバ首相に決まり候補者達がそろいつつあります。本使も懇意にしているサンジャラのジョップ市長も立候補しました。正式な選挙戦は来年だとしても、これから選挙に向けて内政が盛り上がってくると思います。野党のソニコ党首の動向も気になります。しっかりとフォローしていきます。